

「災害時、ふたつの『メディア』はどうあるべきか」

横浜雙葉高校 3年 岸 優美子

1. はじめに

3月11日、電話もメールもつながらなくなった中、親類と連絡が取れた唯一の手段は **twitter** であった。「つぶやきツール」と呼ばれ個人的で閉鎖的な印象を与えがちな **twitter** であるが、今回の震災を通し、私は **twitter** などのソーシャルメディアがもつ可能性について大いに考えさせられた。拡大するソーシャルメディアのありかた、震災時にソーシャルメディアを利用する側の持つべき意識、またマスメディアとの関係について考えたい。

2. 震災当日、ソーシャルメディアはどのように役立ったか

3月11日、**twitter** では多くの情報がリツイートという形で拡散されていた。道路情報や避難所の受け入れ状況、連絡の取れない友人知人について情報収集するツイートも数多くみられた。道路情報とひとくちに言っても、日本道路交通情報センターが出す公式の情報だけではない。「〇〇町××橋付近、タクシーは長蛇の列でとても乗れそうにない」「〇〇通り付近のスーパーはどこも食料品は売り切れ」という実用的な情報が、個人単位で発信されていた。実際、当日外出していた私はこの情報に助けられ、できる限りスムーズな形で帰宅することができた。また、「災害バッグを用意するときに必ず入れておくべきもの」「阪神淡路大震災の経験を通して考える今後の生活で注意すべきこと」のような、緊急時生き抜く上で重要な情報も多く手に入れることができた。

私は **twitter** が震災時に役立った理由について以下のように考える。第一に、**twitter** の情報はリアルタイムであることが挙げられる。TVの情報は多くの人を媒介して伝えられるため、どうしてもインターネットの「速さ」には劣る。情報が提供者から直接受け取れるインターネットでは、時間差なく最新の情報を手に入れることができる。TVで放送するよりも狭い地域に有益な情報も流すことができるという点でも、よりひとりひとりが自分の行動に直結する情報を手に入れることができるのだ。第二に、**twitter** が「双方向」コミュニケーションツールであることがあげられる。誰もが情報を発信でき、また情報発信者とコミュニケーションを取ることでもある。 **twitter** 上での発信源が公的機関のアカウントであっても、質問をすれば答えが即座にかえってくることもある。TVなどのマスメディアは一方向的に情報が与えられ、受け取った我々視聴者側でそれについて議論することしかできない。スムーズに情報のやりとりができることも、情報受け取りの際に齟齬を生みにくくする効果をあげていると思われる。

このように自分の欲しい情報を、自らの手で自発的に受け取ることができるというのがソーシャルメディアの利点だと考える。実際に **twitter** を使ってみると、自分の前を流れて

いく有益な情報の多さに驚かされることが多々ある。自分の欲しい情報を的確に得られるという点で、ソーシャルメディアの存在は震災時の私にとってかなり心強いものであった。

3. ソーシャルメディアの持つ問題点—我々がどう対応すべきか—

誰でもボタン一つで手軽につぶやくことができる利便性をもつ半面、デマがあつという間に拡散されるというマイナスの面もある。「爆発した工場から有害物質が漏れ、死の雨が降る」「次は近畿地方で大地震が発生する」……。人々は善意で情報をリツイートし、たださえ政府や公的機関の出す情報が少なく不安になる中で、不必要に不安をあおるような情報が多く広がっていたのも事実である。Twitter を発信源としたデマが、ソーシャルメディア以外のメールや口伝えで広まることもあったようだ。

ソーシャルメディアを利用するとき、我々はどうの点に注意すべきだろうか。まず、私達は常に情報の真偽について常に注意深くあるべきである。面白半分でその情報を流す人もいれば、専門的な知識がないにもかかわらず不安をあおるようなツイートをする人もいる。情報発信源は個人なのか公的機関なのか、情報の裏付けはきちんとなされているのかについては、特に意識するべきだと思う。また、情報を発信する場合も、情報のソースを明確にし、自分の発言について責任を持つことが大切である。情報を発信した瞬間に、我々ひとりひとりがメディアとしての役割を持つことになる。メディアを利用する側としてのメディアリテラシーだけでなく、メディアの役割をもつものとしても情報処理能力が要求されるのである。

4. おわりに—マスメディアとソーシャルメディア—

私はこれからのメディアの形として、マスメディアとソーシャルメディアの融合が一つの理想だと考えている。実際に twitter と連動して視聴者の声を収集している番組も増えてきたが、緊急時に効果的に活用している番組はなかったように思われる。具体的には、ソーシャルメディアでリアルタイムで更新されていく多くの情報をマスメディアが体系的にまとめ、その真偽について調査して発表するということだ。3月11日に広まったデマに関しても、それが事実無根であるということが正式に発表されたのは情報拡散がかなり進んでしまってからであった。個人のソーシャルメディアが力を持つようになっても、やはりマスメディアの情報収集能力を超えることはないであろう。二つのメディアの利点、すなわち全国を網羅する形でのリアルタイムの「実況中継」と、正確な情報収集能力が組み合わせられることができれば、メディアは今後大きく発展するのではないだろうか。

今後ソーシャルメディアはますます拡大し、より多くの情報があふれることとなるだろう。そのような社会の中では、メディアは「情報を発信する」という役割を担わなくてはならなくなる。我々ひとりひとりがより高いメディアリテラシーを持ち、情報に対して敏

感になることが、今後の社会をよりよいものにしていくのではないかと考える。